

宗教芸術の魅力を

発見してみよう。



観光学部 教授

佐久間 留理子

SAKUMA RURIKO

略 歴

名古屋大学大学院文学研究科東洋哲学専攻(印度哲学専門)博士課程後期課程単位取得上満期退学、博士(文学)の学位を取得。
公益財団法人中村元東方研究所・専任研究員・主事、国立民族学博物館・共同研究員、名古屋大学文学部・非常勤講師(担当科目:印度哲学史特殊研究・インド文化学特殊研究)等を歴任。

専門分野

宗教学、インド学、仏教文化学

研究活動

インド大乘仏教経典の一つである『カーランダ・ヴューハ経(大乘荘嚴宝王経)』(7世紀頃成立)に説かれた仏教世界観(地獄、餓鬼、畜生、阿修羅(あしゅら)、人、天の世界)や観音信仰について研究をしています。また、これらのトピックに関連したインドと日本における仏教文化の比較研究、さらに、インド密教の瞑想法(めいそうほう)に説かれるマンダラ(諸尊を配置した密教世界)の図像と仏教思想との関連性についても研究しています。

研究における醍醐味の一つは、聖典や経典等の文献で知り得た情報を現地調査において実際に確認するとともに、文献には述べられていない情報を新たに発見することです。これまで、インド・ネパール等のアジア地域へ、宗教図像や儀礼の調査のために何度も訪れましたが、その度に新たな発見がありました。

担当授業

宗教学、哲学、芸術学

スタジオの授業では、世界遺産等にみられる宗教図像や儀礼の意味を、神話や説話等の文献を手がかりに読み解いています。一見、何を表しているのかわからない図像や象徴でも、文献を読めばその意味が明瞭となります。授業において、このような新たな発見をすることができます。



学外での取り組みなど

東方学院(公益財団法人中村元東方研究所設立・生涯学習機関)・講師として、社会人を対象にインド古典文学や仏典の講読・解説を行っています。これまでに、インド大叙事詩『マハーバーラタ』や『般若心経』(はんにゃんしんぎょう)等を取り上げました。

主な著書

- 【単著】
・『インド密教の観自在研究』山喜房佛書林(2011年)
・『観音菩薩』春秋社(2015年)